



～秋の種市を終えて～

農園通信 11月号を執筆中でしたが、11/15, 16に東京で開催された種市があまりにも濃くて、得るものがあったので、皆様にもお伝えしたいと思います。

《種市とは》

東京は吉祥寺で開催された在来種・固定種にスポットをあてたイベントです。4回目の今回は、野菜の販売や料理が食べられるマーケットだけでなく、2日目に種から食べるを考える種市大学が相模湖で開催されました。

<http://www.organic-base.com/topic/tane/>

《何をしたか》

初日は野菜の販売をしました。全国から種採り農家が集まっているので、私は福岡の野菜を持参しました。芥屋カブ、小田部大根、博多据わりカブ、おたふく春菊、かつを菜。芥屋カブのように絶滅危惧種の野菜も集まっていました。

2日目の種市大学では分科会で話をさせていただきました。若手種採り農家3人と、主催者で八百屋のwamerwamer 高橋さん、自然食品店自然村の吉村さんの5人での話し合いでした。まず、若手生産者の厳しい現状を話して、八百屋（卸し業）、自然食品店（小売業）からの意見や現状を伺い、参加者の方から質問を受けたりしました。

《なぜ在来種・固定種なのか？》

分科会で、参加者の方から、この質問がありました。

これに対する私の答えを改めて皆さんに伝えておかんといかんと思いました。

日本で流通している9割以上の野菜がF1種とされています。つまり1割弱が在来種・固定種の野菜です。うちの野菜を食べて下さっている皆様はF1種がどんなものかをご存知だと思います。「雄性不稔

性質の利用」や「遺伝子組み換え」などの問題もあります。でも、私はそういうのが嫌だからという消去法で固定種・在来種を栽培しているわけではありません。

一番の理由は、「自分の畑でできる最高の野菜を育てるため」です。自家採種をしていくと、その種が畑に馴染んでくると言われています。たった3年目の自分の種でさえ毎年少しずつ変化しています。毎年、自分の好みにあった母本を選んで、そこから種を採る。そうすることで自分の畑でできる最高の野菜に育っていく、そう信じているから種を採って野菜を育てています。口には出しませんが、心の中で自慢できる個性豊かな池松野菜が育つようになったらいいなと願っています。

もう一つ理由があります。それは、大げさですが、子孫がこの地で生き延びるためです。その地で育つお米と野菜の種があれば食べ物があるので生きていけますもんね。海外に依存したり次代につなげない種では来年その地で食べることができる食糧が手に入るかわかりません。種採りは楽しいですが大変です。でも、いつか日本を救うんじゃないかと夢想することでやっていけます。それが、子供の代か、孫の代か、ひ孫の代か・・・、まあ役に立つかもわからないんですけどね。

《課題》

さすが東京だけあって、毎回種市の参加者はかなりの数になります。でも、関心のある人は固定化されているようで、実際広がっているかというところでもないようです。

やはり、在来種の野菜を残していくには、多くの

人が食べてくれんといけません。多くの人が食べてくれれば、種採り農家も農家として生き延びていきますからね。

そこで、如何に在来種・固定種の野菜を多くの人に知ってもらうかが課題です。毎日それを食べようと思う人が出てくる出てこんは別として、まずは多くの人に「大根は青首大根だけやないんやぞ。」っていうことを知ってもらいたいです。そのために、種市のようなイベントをすればいいのか、テレビや新聞・雑誌の取材を受ければいいのか、スーパーに売り込みに行けばいいのか、よくわからんし、毎日の農作業で手一杯の現状ではなかなかそういうことをやるのは難しいです。皆さん、なんか良い知恵があれば教えて下さい。

余談ですが、今回は料理人ってすごいなと感じました。思わせてくれる料理人と出会うことができました。在来種の野菜はその土地の郷土料理とセットで受け継がれてきました。芥屋カブだったら海水漬けや甘酢漬けです。でも、時代々々によって、食文化は変化していくので、在来種の食べ方も伝統を踏まえて新たなものにしていかんといけません。温故知新ですね。それは、やはり農家ではなくその道のプロである料理人の人の力が必要なんやないかなーと思います。

《お願い》

そもそも皆様がなぜうちの野菜を買おうと思ってくれたのか？実際食べてみてどうか？美味しい？料理しにくい？もっとうすればいいなど、皆様のお考えを教えて頂けると嬉しいです。厳しい意見も大歓迎です。メールでも電話でも会いに来てくださっても構いません。

最後になりましたが、種市に参加して、偉そうに話すことができるのも、皆様が定期的に野菜を買い、食べて下さっているおかげです。今回、何人かの若手百姓が来ていましたが、話を聞く限り、私が一番お客様に恵まれとるんやないかと思いました。日々、その日に届けるお客様を想像しながら収穫できる喜び。それが何より農業を続けていける力になって

います。

今後とも池松自然農園を支えて下さい。私は立派な百姓目指して毎日一生懸命努力していきます。

以上です。